

# おれんじ通信

35

知って支える認知症

## 認知症と口腔ケア

認知症が進行していくと、自分で歯磨きができなくなったり、入れ歯の管理ができなくなったりする場合があります。また、痛みに対して鈍化してしまう症状も見られます。口内の清掃状態が悪化すると、介護者や家族によるケアや歯科医師、歯科衛生士による専門的なケアが必要になります。

アルツハイマー型認知症では、初期から口内の清掃状態が悪化します。また、レビー小体型認知症では嚥下機能が低下し、飲み込む力が弱くなるため誤嚥性肺炎の危険性が高まります。

口腔状態の悪化は栄養摂取や感

染症など、全身の健康状態に影響をおよぼすため、口腔ケアは最期まで重要になります。通院が困難な高齢者の歯や口の健康で困っていることがあれば、在宅歯科ケアステーション(東・西歯科医師会)にご相談ください。

■▷市東歯科医師会 072(965)1020、FAX072(965)1801(月曜日～金曜日13時～15時30分)▷市西歯科医師会 06(6753)8808(FAX兼用。月・火・木・金曜日10時～14時(祝休日を除く))



おれんじ通信への意見をお寄せください。

■地域包括ケア推進課 06(4309)3013、FAX06(4309)3814

